

COVID-19 ワクチンパスポートに関する倫理的議論の紹介

鈴木英仁¹

2021年6月30日

本稿では、現在世界的な注目を集めているワクチンパスポートに関する倫理的議論を賛成論と反対論に分けて紹介する。ワクチンパスポートは、感染拡大のリスクを抑えつつ人々の自由の侵害を緩和する施策として有望であるが、ワクチン供給の不平等やプライバシー侵害の可能性など、考慮すべき問題点も多い。

1. はじめに

ワクチンの接種が世界的に始まる中、ワクチンパスポートと呼ばれる制度が各国で注目を集めている。ワクチンパスポートとは、ワクチンの接種歴や検査の陰性結果などを記録し、感染拡大リスクの低い人に海外渡航や娯楽施設の入場などの自由な行動を許可する証明書制度である。

感染拡大リスクを抑えつつ、コロナ以前の生活を取り戻す手段として、ワクチンパスポートにかかる期待は大きく、世界的な導入が進んでいる。例えば、イスラエルが2021年2月に世界初の国内向けワクチンパスポート「グリーンパス Green Pass」を導入したほか、EUでも加盟国圏内での自由な移動を許可する証明書制度の導入が予定されている。その一方で、様々な倫理的懸念も挙げられており、議論はまだ続いている²。

本稿では、ワクチンパスポートに関する英語圏の倫理的議論を賛成論と反対論に分けて論点を整理し、紹介する。

2. 賛成論

ワクチンパスポートに賛成する最大の論拠は、それが人々の自由の制限を緩和するということである。冒頭でも触れたとおり、ワクチンパスポートの使用により、感染拡大のリスクを低減しつつ、人々の自由な行動と経済の再開が可能になる。パンデミックの初期から現在に至るまで、感染拡大防止のため、ロックダウンなどの様々な行動規制が

¹ 京都大学文学研究科修士課程。 Contact: info@ehics.bun.kyoto-u.ac.jp

² ワクチンパスポートの詳細な定義や世界の導入・議論状況については、次の記事を参照されたい。[パンデミックに取り組む応用哲学・倫理学「ワクチンパスポートの定義や各国の状況についてまとめた論稿を公開します」](#) (2021年6月30日公開)

敷かれてきた。こうした規制が極めて大きな経済的・心理的コストを伴うことは周知の通りである³。そうであれば、こうした行動規制を（部分的であるとはいえ）緩和し、人々の自由を取り戻すことのできるワクチンパスポートのメリットは明らかであると考えられる。

たとえば、ジュリアン・サバレスキュ（英国オックスフォード大学の哲学者）は、他者に危害を及ぼすリスクのない人は自由であらねばならないという他者危害原則に基づく賛成論を提示している⁴。

サバレスキュによれば、新型コロナウイルスを保持している（あるいはその可能性がある）人は、いつ誤発射するかわからない銃を持ち歩いているようなものである。感染を拡げ、他者に危害を及ぼすリスクがあるゆえに、行動規制は正当化されているわけである。だとすると、ワクチンパスポートを持ち、感染拡大のリスクがないか、十分に低いと考えられる人の自由を制限する根拠はないはずである⁵。

以上のように、ワクチンパスポートに賛成する多くの論者は、ロックダウンなどの行動規制がもたらす害悪、自由の侵害を示し、ワクチンパスポートがそれを緩和するという根拠から、ロックダウンと比べて相対的に優れた施策としてワクチンパスポートを擁護していると言える。

3. 反対論

3.1 公平性

続いて、反対論を見てみたい。第一に挙げられるのが、公平性の問題である。現在の日本でも、ワクチンの接種は高齢者が優先であり、ワクチンを希望していても接種できない人と、接種できる人が存在する。加えて、健康上のリスクからワクチンを接種できない人もいる。こうした状況下でワクチンパスポートを導入することになれば、一部の

³ Tom Douglas, “Cross Post: Vaccine Passports: Four Ethical Objections, and Replies.” *Practical Ethics*. (Available at: <http://blog.practicaethics.ox.ac.uk/2021/03/cross-post-vaccine-passports-four-ethical-objections-and-replies/>) 最終アクセス日 2021 年 6 月 29 日、以降参照のウェブサイトについても同様。

⁴ Julian Savulescu, “Are Immunity Passports a Human Rights Issue?” *Practical Ethics*. (Available at: <http://blog.practicaethics.ox.ac.uk/2021/01/are-immunity-passports-a-human-rights-issue/>)

⁵ 同様の議論は以下の論文でも提示されている。Rebecca Brown et.al. “The scientific and ethical feasibility of immunity passports.” *The Lancet Infectious Diseases*, Volume 21, Issue 3, pp. 58-63.

人々に特権を与えることになり、不公平であるという批判がなされている⁶。

また、国家間でのワクチン供給の格差はより深刻である。イスラエルのように、ワクチン接種を望む国民のほとんどにワクチンが行き渡っている国が存在する一方で、多くの低所得国では、ワクチンが国中に行き渡るのに早くとも2022年までかかると予測されている⁷。実際、アフリカでは、2021年6月時点で、ワクチンの完全な接種が完了しているのは人口の1パーセント未満である⁸。国家間移動用のワクチンパスポートが導入され、ワクチンの行き渡っている先進国の間でだけ人流が回復することになれば、低所得国と先進国の間の格差はさらに拡大するだろう⁹。

こうした見解に対して、トム・ダグラス（英国オックスフォード大学の哲学者）は、国内での格差に関しては、ワクチンの供給量が増えていき、また健康上の理由でワクチンを接種できない人に対してはパスポートの提示を求めないなどの特例規定を設けることで、自然に解決する問題であろうと反論している¹⁰。他方、ワクチン供給の国家間格差は、早急に解決すべき道徳的問題であろうと思われる。

また、ワクチンを希望していて接種できない人々だけでなく、個人の信条からワクチンを拒否している人についても、ワクチンの接種を基準に他の人々と異なる取り扱いをすることは差別であるという批判も考えられる¹¹。だが、ワクチンを接種しているか否かという違いは、先にサバレスキュの議論でも触れられていたとおり、他者危害のリスクが存在するか否かという、きわめて重要な違いに直結する。それゆえ、異なる扱いは決して恣意的ではなく、合理的な処遇の違いとして正当化されるという反論があるだろう¹²。

⁶ Privacy International, “‘Anytime and anywhere’: Vaccination passports, immunity certificates and the permanent pandemic.” 17 December 2020. (Available at: <https://privacyinternational.org/long-read/4350/anytime-and-anywhere-vaccination-passports-immunity-certificates-and-permanent>)

⁷ Owen Dyer, “Covid-19: Many poor countries will see almost no vaccine next year, aid groups warn.” *BMJ*, 2020;371:m4809.

⁸ BBC, “Covid-19 Africa: What is happening with vaccine supplies?” 22 June 2021. (Available at: <https://www.bbc.com/news/56100076>)

⁹ Natalie Kofler and Françoise Baylis, “Covid-19 Vaccination Certificates: Prospects and Problems.” The Hastings Center. 10 March 2021. (Available at: <https://www.thehastingscenter.org/covid-19-vaccination-certificates-prospects-and-problems/>)

¹⁰ Tom Douglas, “Cross Post: Vaccine Passports: Four Ethical Objections, and Replies,”

¹¹ *ibid.*

¹² Mark A. Hall and David M. Studdert, “‘Vaccine Passport’ Certification- Policy and Ethical

3.2 ワクチン接種の強制

ほかに、施設への入場や集会への参加のためにワクチン接種を要求することは、ワクチン接種の強制にあたり、医療行為を自由に選択する権利を侵害しているという批判も考えられる。

こうした見解に関して、トム・ダグラスは、確かにワクチンパスポートは人々にワクチン接種へのプレッシャーを与えるかもしれないが、それでもロックダウンなどの行動規制が引き起こす害悪に比べれば相対的な小さな害悪であると反論している¹³。また、現在導入・計画されている多くのワクチンパスポート制度は対象者にワクチン接種者だけでなく PCR 検査等の陰性結果を受けた人も含んでおり、こうした代替手段を設けることで、この批判を和らげることもできるだろう。

3.3 プライバシー

最後に、プライバシーについての懸念もしばしば挙げられている¹⁴。ワクチンパスポートは健康情報と本人を特定できる情報が含まれるから、プライバシーについての不安が生じるのは当然であると言えよう。

コーフラー（米国ハーバード大学の生命倫理学者）とベイリス（カナダのダルハウジー大学の生命倫理学者）は、ワクチンパスポートが引き起こしかねないプライバシーの問題として、ワクチンパスポート用のスマートフォンアプリが他の個人情報や医療情報と紐付けられ、国家による監視に繋がる恐れがあることを挙げている¹⁵。一方、フェルドマン（米国ペンシルヴァニア大学の法学者）は、あくまでワクチンパスポートは新型コロナウイルス感染症に関する健康情報を記録するものであり、過去の医療記録等と接続されることはないとして、プライバシーについての懸念は大袈裟だと反論している¹⁶。

Considerations.” *New England Journal of Medicine*. 31 March 2021. (Available at: <https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMp2104289>)

¹³ Tom Douglas, “Cross Post: Vaccine Passports: Four Ethical Objections, and Replies,”

¹⁴ Office of the Texas Governor, “Governor Abbott Issues Executive Order Prohibiting Government Mandated Vaccine Passports.” 6 April 2021. (Available at: <https://gov.texas.gov/news/post/governor-abbott-issues-executive-order-prohibiting-government-mandated-vaccine-passports>)

¹⁵ Natalie Kofler and Françoise Baylis, “Ten reasons why immunity passports are a bad idea,” *Nature*, 581(7809), pp. 379–381, 2020, p. 380.

¹⁶ Eric A. Feldman, “Why Vaccine Certifications Are a Good Idea,” *Bloomberg Law*, 21 April 2021. (Available at https://news.bloomberglaw.com/immigration/why-vaccinecertifications-are-a-good-idea?utm_source=rss&utm_medium=IMNW&utm_campaign=00000178-eae3-

4. おわりに

以上、ワクチンパスポートに関する倫理的議論を概観した。長く続いてきたロックダウンに代わり、自由を回復し経済の再開を可能にするワクチンパスポートの魅力は大きい。しかしながら、ワクチンの配分の不平等やプライバシー侵害の可能性など、考慮すべき問題点も多い。その適用範囲や対象者なども含めて、慎重な議論に基づく制度設計が必要だろう。